◀対談前に談笑する、
JA石川県中央会　東 専務理事（中）と牧 参事（右）、
石川県生協連　青海 専務理事（左）

石川県内の協同組合紹介

① JA石川県中央会

県生協連の事務所からほど近くに、石川県農業会館の大きな建物があります。2階にあるJA石川県中央会を訪ねると、東（ひがし）英一専務理事と牧康晴参事が迎えてくださいました。東専務の奥様は教員をされていた時は学校生協、現在は牧参事の奥様ともどもコープいしかわの組合員だそうで、お二人ともコープ商品をよく御存知でした。

JA石川県中央会
牧康晴　参事

生協連
青海万里子　専務理事

青海　牧参事、まずJA石川中央会について教えてください。

牧　各県に一つずつ中央会があり、県内の単位農協の指導事業を担っています。石川県内には17の農協があります。昔は100以上の農協があったんですよ。

青海　JAはいろいろな事業を行なっておられますよね？

牧　そうです。組合員の生活を支える総合農協は日本特有のものです。

青海　私たちも組合員になることはできますか？

牧　正会員は10a以上の農地、または年90日以上農業に従事している人が対象ですが、準組合員にはJAの事業を利用していただければなれます。石川県では正・準組合員の割合は半分になっています。

青海　いま、JAが抱えている課題についてお話しいただけますか？

牧　まずは次世代対策ですね。昔は農家を訪ねるとお嫁さんが「じいちゃん、農協さんが来たよ」って応対してくれたように家単位でしたが、組織基盤の強化を図るため、若い世代や女性に組合員になってもらうよう働きかけています。女性の意見を入れていくため、総代の10％、2名以上の理事を女性枠にするなどしています。

青海　ファーマーズマーケットが好調ですね。6次産業化についてはいかがですか？

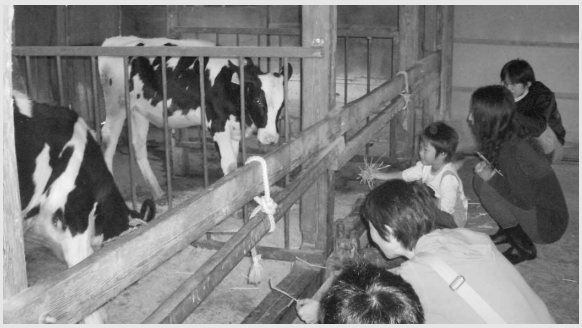
牧　おかげさまで、全国的に伸びています。高齢者でもできた分だけ並べられますから、身の丈に合った生産ができます。お客さんに喜んでもらえるよう、いかに珍しい品種やアイテム数を増やすかが、ポイントですね。農業が1次産業、加工製造が2次、流通販売が3次、全部を足して一手にやることを6次産業化というんですが、これがなかなか難しい。小松のトマトカレーは表彰されてから売り上げが伸びましたが、安易に似たような商品を作っても、ヒットはしませんからね。

青海　最後に、消費者にメッセージをお願いします。

牧　いま「よい食運動」を展開していますが、自給率や食料安全保障の面から考えても、自国の農業を守るためにも、ぜひ国産の農産物を選んでいただきたいと思います。

生協との連携

JA白山と連携した乳牛とのふれあい体験



コープいしかわは昨年、県内各地で開催した組合員行事や商品企画などで、協同組合と協同した取り組みをすすめてきました。農業協同組合との連携では、「五郎島金時の収穫体験」や「中嶋菜料理教室」などが行われ、参加した組合員が協同組合のつながりを通してさまざまな学習や体験を行うことができました。また、昨年7月にリニューアルオープンしたコープたまぼこ店内にはJA金沢市の農産物直売所「ほがらか村」が設置され、新鮮な地場野菜が提供されています。